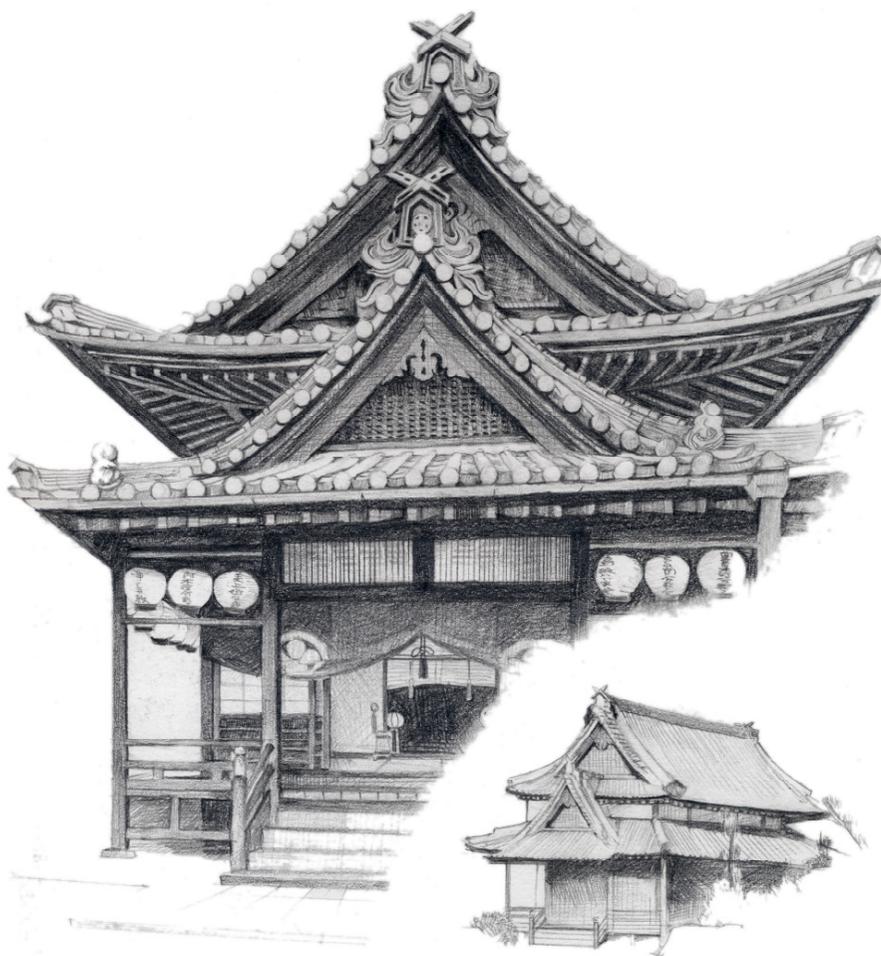


かさおか

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66-1311
FAX 66-1314



在りし日の大教会教祖殿と
現大教会境内地へ移築した教祖殿

をやの思いをにをいかけ、

^{うちうち}
内治に心を配り おたすけに誠の心を尽くそう

1. 一步前進 百万軒
2. おつとめの徹底とひのきしん
3. 機を逃さず おさづけの取次

表紙のことば

割愛すると言いながら書いてみる。尚先月号で「蟹蘭」と書くところを「カニ欄」と書いてしまった。パソコンで書いていると目に涙が溜まったりすると、画面がぼやけて誤字のままにする事がある。

笠岡大教会史を書くのに父親(三代会長)に聞き書きを取る事をお願いした。二代会長の仕込みについて、神邊分教会の治め、教祖殿・初代会長室・役員住宅の普請、教祖四十年祭倍加運動への笠岡の姿勢、分離昇格に伴う詰所の経営、四代会長への会長職の譲り渡し等々。今から考えれば聞いておきたかった事はまだまだあったのに、私の若さの故か、思いつく事柄が限られていたように思う。教祖殿の普請について尋ねた時、父の目に涙がひかかった。そこ

に私は会長としてでなく父親としての姿を初めて見たように思った。「わしの悟り違いやった」と最後に言って、父は黙った。その沈黙を私は何とか堪えて「それでも教祖殿の普請を通して初代の居間が出来たし、役員住宅が出来たし、良かったですね」と言った。「そや、なあ。役員が足腰伸ばす処が、それまでなかったからなあ」大教会史には次のように誌している。

大正十年八月、三代会長夫人が身上となり、大熱に苦しんだが、この月六日、青年会本部の巡教があり、村田勇吉氏の「信仰の生命は親孝行にあり」との講演があった。この時、当時三歳の会長次男・雅志が、幾度となくタオルを冷やして夫人の頭にあてた。この講話、子供の姿から、三代会長は初代会長がゆっくり休める居間の建築を早急に進める事が必要と理の思案を進めた。これは既に大正八年の会議で教祖殿の建築と共に定まっ

ていた事なので、役員会議で何ら異論なく建築が決定された。ところが、大正十年十月二十五日、雅志が、俄に発熱、医師は脊髄炎と診断し、このままでは到底もとの身体に戻らないとの事であった。三代会長は井筒たね大教会長、宮田佐蔵氏に諭しを伺った処、「初代会長の居間建築も結構であるが、それより教えの親、教祖のお鎮り下さる建物を建つべきである」との事であった。直ちに役員会議が開かれ、思いを切り替え、ここにまず教祖殿、続いて初代会長室、更に役員住宅、信者室等の附属建物建築が決まった。こうして第一期工事として、教祖殿、初代会長室の建築が決定された。教祖殿の新築落成奉告祭は大正十三年四月十八日であった。

私情に立ち入らず、簡潔に記した積もりであるが、しかしその背後に、普請と立て合って子供を一人亡くした父親の思いがあったという事をもう少し書いた方がよ

かったのではないか、という気もする。

そう言えば、私は、昭和四十五年三月、移転前の大教会の此の教祖殿で、今の西江昌直・金浦分教会長さんと大教会青年の辞令を頂いた。この頃、辞令交付は教祖殿で行われていたように思う。今、教祖殿は現大教会の会長宅庭園の一角に移築されている。知る人はその姿を格別の思いをもって見める。しかしその思いは、歳月によって徐に風化してゆく。それで良いのだろうか。でも父親の目に浮かんだあの涙だけは、いつまでも私の胸の中にしまっておきたい、と思う。

大正十二年

1月19日 教祖殿建築起工式

4月29日 上原雅志出直し(六歳)

大正十三年

4月18日 教祖殿落成奉告祭

(1600人参加)

(史料部長 上原繁道)

第五回

にをいがけ・おたすけ実修会

要員研修会

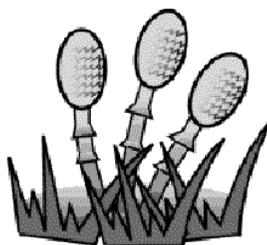
二月二十日十三時神殿にて親神様・教祖・霊様を礼拝後、大教会長様より、教祖百二十年祭活動を上げの今年、全教会が一名以上の初席者を御守護頂く上に、要員一人一人が自覚を高め、少しでも教会のお役に立ち、勇んで頂き、実を上げるべく、一層の実動と活躍をお促し下さいました。

講話では、原田浩先生から、「実を上げてこそ仕上げの年」と題して、未信者の色々な人々を制限なく受け入れ、二十名前後を教会に預かり、長年日々物心共に、それこそ言葉に言い尽くせぬ御苦労の中を、教祖のひながたを心の支えと、夫婦心を尽し力を協せて全力でつとめ切る中に、数々の不思議自由を見られたことなど、人だすけのよろこび素晴らしさをお聞かせ頂きました。

その後、各班に分かれて、二十分程ウォーミングアップで心を整え高めて、にをいがけに出発、折しも小雨が降り風が強まる中を二人一組になって一軒一軒戸別に訪問、日曜日で在宅の家も多く、一言でも親の思いを伝えるべく、真剣に勇んで一時間程つとめさせて頂きました。帰会后、ふりかえり、それぞれにつとめて気づいた

こと・感じたこと・学んだことこれからやってみたいことをねりあい、有意義につとめました。閉講では、佐藤布教部長より、実修会も五回目となり、慣れが出て心が緩む事を案じて、一同に、心を引き締めて尊き使命を勇んで全うする様、熱き思いを聞かせて頂き、一同新たな決意を定めて終了しました。

(布教部次長 中村 剛)



春の学生おちばがえり

立教168年「春の学生おちばがえり」が3月28日、おちばで開催されました。

当日は前日からの雨がやまず、東西・北礼拝場を使って式典が行われ、5千人を超える学生が真柱様のお言葉に耳を傾け、学生に対してのをやの思いを真剣に聞かせて頂きました。

式典後各直属に分かれ、夕方まで直属アワーが行われました。「春のおちばがえり」は教区主体で帰参する関係で直属との関わりがないため、直属とのつながりを持たず場が直属アワーです。内容は直属教会長のお話、直属毎に趣向をこらした企画や別席です。

今回、笠岡につながる学生は28名の参加で、内7名が別席を運びました。笠岡には大教会としての学生会がまだ整っていないため、笠岡につながる仲間として親睦を深める行事を毎年計画しています。限られた短い時間のため、何をするか毎年、頭を痛めるわけですが、今年は会食後、別席を運ばない学生は奈良公園へ行き、班毎に公園を散策しながら猿沢の池に集合するプログラムを行いました。

教祖120年祭の来年は「一万人のおちばがえり」を打ち出されています。笠岡につながる学生はもっともつとめます。今年参加してくれた学生はもとより、参加できなかつた学生には是非とも来年はおちばがえりに参加してくれるよう、お声かけの程宜しく願います。



(学生担当委員 三阪泰人)

鼓笛バンド

講習会

大教会では3月31日より4月2日迄の2泊3日で、笠岡むつみ鼓笛隊春季合同合宿“が開催されました。これは、毎年この時期に、笠岡に繋がる鼓笛隊が一堂に集まり、合宿練習を行なうものです。

3月31日といえば、まだまだ朝晩肌寒く、大教会の桜もさすがにつぼみをすっかり閉ざしておりました。そんな時候の中、今年の合宿は始まりました。参加者は、本隊より42名、福山隊より22名、高屋隊より14名、島根隊より18名、計96名の方が隊員として参加して下さい。又、係員の35名を含めると総勢131名の方が今回の鼓笛合宿に参加して下さいました。

内容は、テーマソング“夏に飛び出せ”、教祖120年祭の歌“の習得、室内オリンピック等と、昨年と大きな変化はありませんでしたが、今年

は例年より一泊少ない日程であった為、子供達が合宿の内容に満足してくるかが心配の種でした。

最終日の『おつとめ学び総会』の中で、親神様・教祖・祖霊様、そして総会参加者の前で御供演奏をさせて頂いた時は、当初の不安も感動に変わっていました。

今回の合宿も大勢のひのきしんの方々に見守られながらの合宿で、特に食堂ひのきしんの方々には毎食子供達に美味しい食事を作って下さり有難うございました。又、それぞれに忙しいスケジュールをぬって顔を出して頂いた係員の皆様にも御礼申し上げます。

今年もまた夏の子供おぢばがえりに向けて各隊の練習がスタートしました。これから鼓笛隊に入りたい方がおられましたら、ぜひ各隊の方へ連絡を下さい。どの隊も首を長くして皆様のお来しをお待ちしております。

(本隊長 今川昌彦)

少年会

おつとめまなび総会を盛大に開催

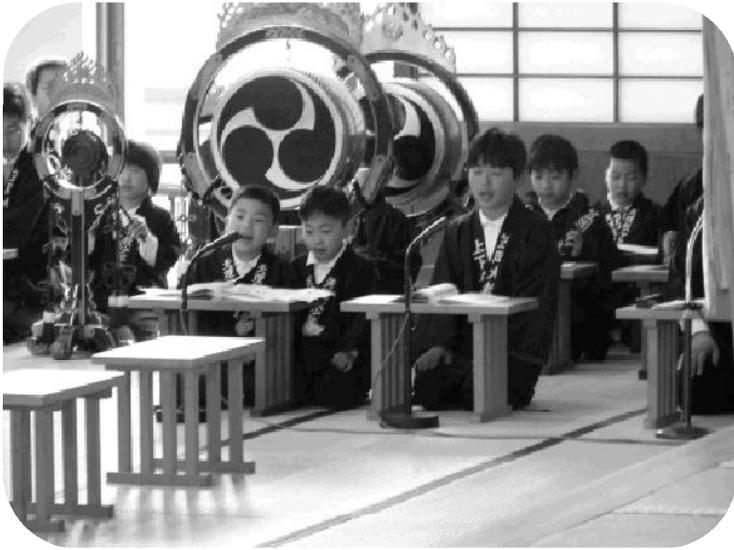
少年会(団長中島誠治)では、去る四月二日、年度の総会を大教会神殿で開催しました。心配していた天候も、お陰により好天のご守



護を頂く中、五百名を超える多勢の参加を頂いて、にぎやかにつとめさせて頂きました。育成会長様(大教会長様)の御臨

席を頂いて、午前九時三〇分より雅楽奏上の中、おつとめ衣を着用した各ブロックの代表の少年会員が、祭主、扈者、賛者、指図方と緊張しながらも、おちついて真剣につとめる事が出来ました。引き続き、座りづとめから十二下りのおつとめを、各下りごとに交替して陽気につとめ、各ブロックごとにこの日を目指して懸命に練習してきた成果を、親神様・教祖に御覧頂きました。

おつとめまなびの後、総会式典では育成会長様より御祝辞を頂き、おつとめをつとめさせて頂く事の大切さを、皆に分かりやすくお話し下さいました。全員により『少年会員の誓い』を力強く唱和した後、「わかぎ門出式」が行なわれました。今春中学を卒業する二十三名の少年会員が一人ずつ呼び出され、記念品を贈呈、団長よりお祝いの言葉を頂き、



学生会・青年会・女子青年への引き継ぎが行なわれました。神殿では最後に、鼓笛の御供演奏が行なわれ、合宿での練習の成果を見て頂こうと、一生懸命演奏する隊員の姿に、会場から大きな拍手が贈られました。

昼食には、前日から大勢ひのきしんして下さった婦人会の方々の心のこもったカレーに大喜び。

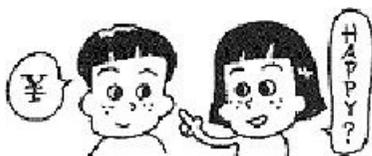
午後からの「おたのしみ行事」では、今回初めての試みとして『マジックショー』を開催致しま



した。教内で活躍中のマジシャンを山口県よりお招きして、前日から準備して頂いたアートバルーンとマジックショーは大いに盛り上がり、喜びの中に今年のおつとめまなび総会を無事終えさせて頂く事が出来ました。開催に当りお世話取り下さいました方々に心より御礼申し上げます。ありがとうございます

(少年会副団長 北川 治史)

【1】幸せとは幸せって感じる心



これだけ満たされたら満足するということは、おそらくないでしょう。人間って欲張り、欲の心に際限はないんですから。

幸せって、物や金、地位や名誉でつかめると思いますが、どうやらそんなものが幸せの条件でもなさそうです。

ごくなんでもない、道端の草花を見て、毎日の快食快便に、ああ、なんて幸せなんだろうと、感じられれば、それにすぐる幸福はないんじゃないでしょうか。

いま在ることに幸せって思える感性。そこから幸せ感はどんどんふくらむことでしょう。

談話室



出会い その一

神村分教会前会長 下田輝夫

昨年十月秋季大祭の佳日に、長男が教会長任命の御許しを頂き、四十年五ヶ月つとめさせて頂いて、前会長となりました。

四十年と云へば長い筈ですが、過ぎてみると本当に早いナー短いナーと思えてなりません。私如き者が長年勤めさせて頂く事が出来ましたのは、素晴らしい人との出会いが有ったからこそです。それは今から五十数年前の事になります、私の想い出を綴りますので、我慢してお付き合い下さい。

私は中学は是非天理中学へ入りたいと思って居ましたが、戦前の物の不自由な時、末っ子で親にとっては可愛いかったのか、ひもじい思いをさせたくないから、家から通える学校へ行けとの事で、福山の盈進へ五年通い、卒業も近くなった或日、上級の会長様から、今なら天理の学校へ入れるがどうするかと云はれ、即座に行きたいと返事をし

て、手続きをして頂きました。

戦後の学制改革で六三三制が施行された時です。中学五年をもう一年行けば高校卒業となる時に、新制天理高等学校三年に転入、一年間お地で勉強させて頂き、天理高校第一回卒業生の一人とならせて頂きました。

当時笠岡部内で男子では、陽備分教会前会長虫明昌平さんと私の二人だけでした。今考えてみますと、第一回と云う貴重な時に、よくぞ卒業させて頂けたものと、改めて感心して居ます。

第一の出会いはこの一年、学生寮で同室になった同級生の木船さんと云う方です。とても真面目で親切で、頭が良くて優しく、心のひくい正にお道の人でした。

何も知らないわからない私に、色々教えて下さり、又色々な所を案内して下さい、お道の素晴らしいさを次々とわかせて頂きました。学生であり乍ら、毎晩本部の夕勤めに参拝し教祖殿御用場でお手直し、毎晩二下りずつ、私はここでおてふりを覚えました。

教祖の御前で十二下りを学ばせて頂き、他で習った事は一切ありません。これも木船さんの御陰です。探し求めても、こんな素晴らしい人とは出会えないと思います。私にとりましては此の上ない有難い人であり、此の人こそ私の理の親と云うべき人と思う程です。

色々教え導いて下さり「たすけのだい」と云う本の柳井徳次郎先生、神殿お助け掛として、北礼拝場の北東の隅に有りましたお助け所でのお話も、よく聞きに連れて行って貰いました。今思えばなつかしい想い出です。

木船さんは、山名部属浜松分教会所属の布教所でしたが、七十年祭の頃教会になり、母親の後を継いで二代会長にされましたが、数年前出直されました。私にとりましては、かけがえのない大事な人でした。今でも当時の御恩が忘れられず、盆暮と御命日には細やかな気持をお届けして居ます。せずに居れない、尽してもくく、尽し切れない程の大きなものを頂いて、今日の私があるのです。

木船さん本当に有難うございました。



感謝!! 感謝!!

錦備分教会長 室 悦子

テレビの天気予報があさって4月3日は雨だと告げていた。雨か…。

「祭典の日に雨が降る様ではダメです。たとえ雨が降っていても、この教会の上だけは晴天のご守護をいただく位の信仰をしなくてははいけません。」キツパリ言い放つ巡教の先生のど迫力と信仰念に子供ながらに強い衝撃を受けた時の事を思い出しながら、いったい何を反省させてもらえば良いのだろうか…。

次の日目覚めた時、少年会員だった頃、親の恩について教えてもらった事を思い出した。「朝、目が覚めてから一日の行動を考えて、親から受けている恩について考えてごらん。雨露しのげる家で暖かい布団で一晩安心して休ませていただけたのは親のおかげ。もし家や布団がなかったら、ダンボールや新聞にくるまって寝なあかんで、ひよっとしたら野犬におそわれるかと思ったら安心して寝てられんやろ。歯を磨いて顔を洗えるのも歯みがき粉を買ってくれて水道代を払ってくれる親のおかげ。暖かい朝ごはんを食べられるのも皆が寝ている間に起きて朝ごはんを作ってくれた親のおかげ。洗濯してもらった服を着れるのも

親のおかげ。洗濯してもらえなかったら毎日同じ服を着て学校へ行かなあかんでそしたら皆から臭い近寄るなど言われなあかんで。ちょっと考えただけでも数えきれないほど恩があるやろ。そしてその恩を返して行くのが人間の姿なんやで。皆は小さいから働いて親に今月お世話になったお礼ですと言うてお金を渡すわけにはいかんやろ。朝起きたらどうしたら恩が返せると思う?そしてらニコニコしながらおはようございませと元気にあいさつする事。ああ今日も元気やなあ親に安心してもらえるやろ。反対にねむたいからムスとして何も言わなかったら、どうしたんかなあ体調悪いんかなあと心配かけるやろ。それは恩をただで返すことになるんやで。朝ごはんでも「今日もおいしいわー。ありがとう」と言って食べたら、朝起きて作ってくれたお母さんもうれしい気持ちになるやろ。つまり今の自分ができる恩返しとは、どうしたら親に喜んでもらえるかそれを考えて行動する事なんやで。」

今の私に足りないのはこれだ!! 会長就任奉告祭を迎えるまでにどれだけ多くの方に世話になってくれる? 願書を作成し下さった先生、視察に来て下さった教区主事先生・加古支部長さん、講習会で



お話し下さった先生方、講習課の方々、おつとめに手が足りなかったら応援に行かしてもらって、足りない物があつたら調達してあげるでと声をかけて下さった先生方、こんなに多くの方々の暖かい心を頂戴しながら、日がせまっているのにもこれでもまだ出来ていないと、感謝するどころか「あれはどうなっているの。」と聞かれると心の中でそんなことは後でも間に合うからこっちは先にしたいのに…と不足心を使っていたなあ。教会や私の事を思えばこそ言って下さっているのに…申し訳なかったと心からおわびした。

そして当日。明け方少し雨がぱら付いていたけれど、この雨がなかったら作物も育たないしありがたいなあ。なんだか全ての事がありがたく、もつたいたい、うれしいなと感じることが出来た。おつとめの頃にはパーと明るい日差しが差して来て、神様が今日のこの日の心を忘れないようにと言って下さっている様な気がして涙があふれて止まらなかつた。何事も一生懸命させてもらおう、足りない分は神様が足して下さいのだからと心に決めた日でした。どうぞ皆様これからもよろしくお祈り致します。

モスクワ サンクトペテルブルク 演奏会に参加して⑤



大教会岡本久善

エミルタージ
ユ美術館での膨
大な数の美術鑑
賞を短時間で了
えたのち、専用
バスにて夕食へ
と向う。その途
中、港へ寄り、
思いも掛けぬ船
を見学させて頂

く。艦名は「オーロラ号」何んとも優しい名前の軍艦である。この船は、日露戦争時、日本海々戦で、東郷平八郎元帥率いる、日本連合艦隊との戦いに破れ、ロシアまで逃げ帰ったバルチック艦隊の内の一隻、現存する唯一の艦とのこと、早速記念写真をフラッシュを焚いて撮る。港に係留され記念艦として展示されてある。戦に破れ、どの様なルートで帰ったのか。乗組員の当時の心理等誠に興味深い。暗いのと時間が艦内見学を許さない。外装は立派で、古さを感じさせない。現在でも通用すると思える位のスマートさを持つ、ひょっとすると第二次大戦にも改装して使用したのではなかろうか。

市内のレストランの一室で、何時もの様に、石川社長おごりのワインとビールを頂きながら、豪華な、反省会を兼ねた夕食会となる。その話の中

の海外危険情報を一つ。今日、広場散歩中の好川氏(荷物担当)職業弁護士である。写真が趣味で大変良く動かれる。夕暮れの王宮前広場で被写体を求めて歩いている時、前を歩くロシア人が透明のビニール袋を落とす「落し物ですよ」と声を掛けるが去ってしまう。良く見ると、米ドルが千ドル以上入って居る。この時あつ例の詐欺だ叫好川氏は気付いたので現場を離れたとのこと。世界観光地の何所にもある代表的なケース。この後この袋の中身に気を取

られたり、中味のドルを計算したりしていると第二の男が登場し、「二人で山分をしよう」となり、「拾った〜」と喜んでいると、第三の男(落とし主)が第二の男と登場し、落とし金額が二千米ドルと云ふことになり第二の男と五百米ドルずつを支払うこととなる。金を持って居ると見ると、大変な金額を要求する。(第二の男はサクラである)。海外の観光地には、沢山の危険が潜んでいる。私も、スリ、ヒッタクリ等



何度も目にしました。昔、親しい先輩が、ルーブル美術館で8ミリを撮影中、持っていたポーチから、現金、トラベラーズチェック等、全て盗まれたことがあった。今日の様な知的犯罪も増して居る。困ったものである。ロシア滞在の長い曾山氏も又度々大変な出来事に遭遇したとのこと、特に、日本人は中央アジアの人々と似ている為、反政府組織、テロ集団のメンバーと勘違いされて警察に拘引され長時間調べられる等、沢山の苦い

経験の持ち主でもある。何ごともなく過ごせて何よりである。明日はサンクトペテルブルクの街との別れの日である。早朝の出発に備へて、老人二人は今夜も早々に床につく、少々疲れも加わり、相棒のイビキが気になるがすぐ休むことが出来る。翌朝五時、心地宜い目覚めで朝を迎えることが出来、六時には、広いロビーの片隅のソファで、皆んなを待つ、その間、空港までのバスの中の朝食が配られる。パン野菜ハ

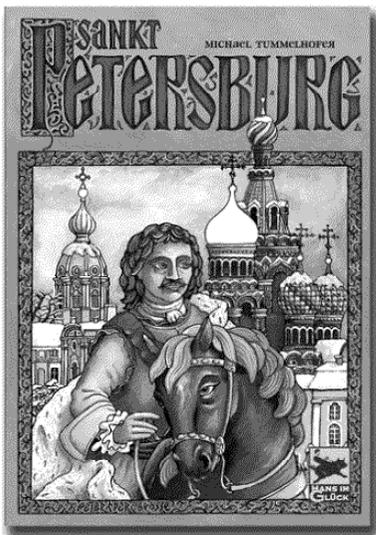
ム、ジュース等十分だ。車中で朝食を取り、八時五十分、日の出前モスクワへ向けて飛行機は離陸、一時間少々にてモスクワに着く。空港よりバスにて例の白樺の林の中を走ること一時間、市内中心部にあるコンセルバトリー音楽院に着く、こゝは演奏会場でなく、曾山、田中両氏の大変工夫された点で、昼食会場である。曾山氏の友人を介して頼んで頂いた、学生用の食堂である。安価で栄養価に富んだ代表的なロシア料理を頂くことが出来た。こゝでの食事を済ませて、「ドラマ芸術学校」に移動。こゝが最後の演奏会場である。市内中心部ながら、大通りから一筋入った、人通も少なく、閑寂を感じる場所である。この劇場は、世界各地から、演奏家だけでなく、工芸家、画家等種々な芸術家の集る所のように、ホールは大・中・小ホールを備へ、入口横は広いスペースの展示場となつて、現代画家の絵画が展示されてある。我々は、楽屋と云うか控室に荷物を入れ、大ホールにて会場の準備をする。劇場側から担当のロシア人の方が、曾山、田中女史の通訳にて、照明、音響の調整や舞台の位置設定等、芸大卒の中沢君と相談しながら整えられる。斯の如く、会場は多様な演奏に応えられるようフロア様式で、舞台はなく、客席も、フロアから椅子席、中二階、二階、三階と三方から、鑑賞出来る。オペラ劇場の舞台が無

い状態を想像して頂ければ宜い。我々舞楽を舞うのには都合の宜い会場である。ヨーロッパは、オペラが盛んで各都市にオペラ座があり、舞台の下に楽員が入つて、演奏する為、客席に近い所が傾めに上向ている。その為、狭い舞台では、舞人がよろけることがよくある。流麗にして勇壮に舞う、若き多古浦分教会長、二十五年前、イタリアの小都市のオペラ座では、度々よろけたことを、思い出す。最近は、酒を召して度々よろけると耳にするが、体に注意し、信者さんの為に頑張つて下さい。会場準備が早く出来た為、前日の注意事項を守つて二時間少々の自由時間だ。皆三三五五に別れて市内の見学だ。私も老人組数人で、近くのカフェに入り、四十七ルブルで、コーヒーを頂く、窓越しに、道行く人々を眺めていると、「お前も年取つたナー」「二時間もあれば、もっと歩いて見学しろー」ともう一人の自分が言っている。若い時は、飛行機乗継ぎの時間を、一人でアムステルダム市内観光をやつたこともある。年だけでなく寒さが、左足の筋肉に痛みを起し、長時間歩くと痛むので座ることが多くなる。

ゆったりと時間を過して会場に帰り、リハーサルに入る。今日が最後の演奏会であり、有料の入場者である。入場ロビーでは、パンフレットも売られてある。表に「日本の秋」と日本語で印刷され京都の山荘の写真が小さく入れられ、中は、源氏物語の墨筆をベースに、行事日程、内容等がロシア語で印刷、雅楽の説明・天理教の紹介された立派なパンフレットである。入場料は、日露友好協会の収入となり、友好協会の女性がチケットとパンフレット、本等の販売をされ、入口附近のロビーは華やいでいる。入場者三百〇四百人位、午後七時、曾山氏の流暢なロシア語の説明と友好協会会長の挨拶が始まり、管絃、三曲、と楽器紹介、龍笛の紹介の時、住田君が「モスクワの夕べ」を独奏すると大変な拍手と歓声を頂く。続いて、舞楽・蘭陵王、名曾利の二曲で終る予定がアンコールの要求に、長慶子の三度拍子を奏すがアンコールの声止まないのもう一曲奏す。止まないがこゝで終りとする。中沢君の「今日は宜かった」の一言に楽長藤井先生も満足そうである。

在留邦人の人々が荷作りをしている楽屋まで、御礼を申しに来て下さり感激する。

《以下、次号に続く》



温故知新

昔がたり

昔々の遠い記憶になってしまった。わしが宣教師長に任命されたのは昭和十五年、三十二才の時じゃった。あの時、三代会長上原繁雄先生が津山までおいでんさってな、

「お前、所長になってくれんか」
わしゃびっくりしてな、夜中まで押問答が続いたんじゃ。

返事をせえと云われても、よわったなあと思うだけで考えがまとまらん。わしゃ別の部屋へ行っって頭をか、えとった。と、突然、どこからか、お受けせえ、お受けせえ」という声が聞こえてきてな、こりゃ受けにゃなるめえと、その旨三代会長様に申し上げたら喜んでくださってな。

早速奉告のおつとめをさせてもらおうということで、拍子木が



三代会長様、そりゃ当然じゃが、数取はお前がやれと云われ又びっくりじゃ。

役員さんや年上の人が居るのにと考えたがやれと云われたんで、「ハイ」と云うたな。もう恐縮してしまつたが、つい先日のような気がする。

その当時、津山から笠岡までは今と同んなじコースじゃが、何しろ時間がかつたな。こ一日かかったような気がする。津山から岡山までは中国鉄道、ガタコン、ゴタコンのんびりかけるんじゃけえな、三時間位はかかつたんじゃねえかな。

岡山から笠岡までは山陽鉄道で、二時間位はかかつたんじゃねえかな。

笠岡へ着いたら井笠鉄道——
軽便とも云うとった。ひと駅
でくぢば駅でここで降りりゃ
近かつた

井笠鉄道は昭和四十年代前半
まではまだあつたように思う
がな。

昭和二十年の終戦後のある時
じゃった。一人で笠岡まで自
転車で帰つたことがあつて
な。当時の道は今では考えら
れん道じゃった。若かつたけ
え出来たんじゃが、二度と帰

ろうとは思わなんだ。今はどこまでも舗装されて
スイスイじゃが、あの頃は石ころだらけの悪路、
悪路で山登りの道ぐれえ悪かつたなあ。

岡山の街並を抜けて津高町をぬけりゃ辛香峠へ
さしかかるんじゃ。この峠が大変じゃつた。今は
トンネルでスポンと抜けられるけえどなあ。峠を
降りた所へ池があつてな。ひよいと見るとカメが
居つてな、こりゃ子供の土産になるぞと思ひ捕え
て帰つたことがあつた。その池は今でもあるぞな。

もう一寸昔ばなしをしてもよろしいかな。

昭和の初期の頃までは月次祭の前にな、みくに
の舞“いう舞を舞うて祭典を初めとつたんじゃ。
長ごうは続かなんだと思う。

(みくに——御国と書き、皇国“の意である。
現在でも格式の高い神社では舞われている舞のこ
とだろうか)

朝夕のおつとめの前に祝詞をあげとつた。“掛
巻くも畏き天理大神の御前に……“という祝詞
じゃった。これは昭和二十年で中止になつたと思
うがな。

月次祭の前にゃ朝風呂に入って、身を浄めてと
りかかつとつたが、正直云うて面倒くさかつたな。

これも昭和初期の頃までじゃったような気がする。

昭和二十年頃までの月次祭にや、衣冠束帯でつとめとったが、これもいちいち面倒くさかったな。

朝夕のおつとめにや、羽織袴をつけておつとめをした。せえでおつとめの後のおてふりまなびにや、いちいち羽織をぬいでな。昭和二十年代半ばまではそうやとったと思うけれど、教会によっちゃ遅くまでそうやとる教会があったんじゃねえじゃろうか。

こうやって話しゅうしよりや、ついきのうのような気もするけれど、考えてみりや、どえりや昔の話しじゃな。わしも九十五才になったけれど、教祖がな、一六才まで長生きさせてやろうといわれてな、ハハハハ……。まだまだこれからじゃ。

——九十五翁より聞きし話

(鶴山分教会前会長

中島宇一)



▼養徳社発行『陽気』誌四月号、「道柳」より転載

▽今回の課題は「進」選六十句中、笠岡に繋がる教友の方一名、一句が見事選ばれ掲載されていましたので転載させて頂きます。おめでとうございます。

佳詠 東悠分教会長夫人 田林 美智子
ランドセル光りて進むご神苑

▼病喜録のうた 東濱 十三雄

今日もまた父母の遺影が笑ってる
陽気ぐらしを うながす様に

鏡見て 笑うレッスンしてみれど
口は笑うが 目は無表情

春風に 逆いもせず流雲
里の騒音 聞き流しつつ

▼川柳言 油木分教会 黒瀬 修 式

をやの道言うて楽しむ道でなし

言う程に出来ぬ己の恥かしさ

言い過ぎてやり場なき身の理の思案

言わずとも誠伝わる理の世界

よき事を言えばよくなるふしぎかな

【2】自分の心は使えても人の心は使えない



あれもしたい、これもしたい……何でも思い考えることはできます。自分の心は自由に使えますが、人の心はその人の自由ですから、自分の思うようにはなりません。我を通せば衝突するのは火を見るより明らかでしょう。

神様は、親子でも夫婦の中も兄弟姉妹も、みなめいめいに心違う、と。私たちの使う心はみな違うのですから、自分がああしたい、こうしたいと思うのは勝手ですが、人に、ああしてほしい、こうあってほしいと思えば思うほど、自分の不足心を増幅させる結果になりかねませんね。

◆青年会笠岡分会総会

当たり前のように生まれ育ち、暮らしている私たち。
 思えば私たちにおかけ下さる使命は、果てしなく大きい。
 笠岡につながる天理青年よ、今こそ集え！！
 迷うことも、疑うこともなく、ただひたすらにをやの
 期待にこたえ、世界勇ますあらしとつりょうの若き力を
 結集し、ここに勇み立ち、
 成人の道を共に歩もうではありませんか。

【開催日時】 5月22日(日)
 9時 受付
 10時 おつとめまなび 式典
 午後 にをいがけ
 16時 解散予定

【携行品】 おつとめ衣、にをいがけが出来る服装

【おつとめ役割】

座づとめ	笠岡分会委員	浅野明教	よろづよ	笠岡分会委員	浅野明教
一、二	直轄	森本正典	三、四	福山ブロック	藤井保人
五、六	久松ブロック	中村真人	七、八	高屋ブロック	瀬良 昇
九、十	上下、府中市	高田一弘	十一、十二	島根ブロック	門脇裕教

◆第2回ひまわり大会 (婦人会笠岡支部ひまわり会)

【期 間】 平成17年6月3日(金) 午後12時半、受付
 1時、開会
 3時半、解散

【場 所】 笠岡大教会神殿
 【内 容】 よろづよ八首、支部長様挨拶、会員感話、講話(高屋分教会長)
 【対 象】 ひまわり会対象者

◆青年会 別席・伏込ひのきしん団参

いざ、ちばへ!! 老若男女問いません 年祭に向けて仲間とともに

【集 合】 6月5日 午前7時半 笠岡詰所 玄関前広場
 【お問い合わせ】 青年会笠岡分会輸送部 森本正典
 各ブロック担当者 島根 本田 正悟
 直 | 森本正典 久松 中村真人
 福山 平盛尚樹 上下 高田一弘
 高屋 瀬良 昇 府中市 山田 睦浩

◆縦の伝道講習会

【と き】 平成17年6月21日(火) 祭典講話
 【と ころ】 大教会
 【内 容】 少年会本部委員による縦の伝道についてのお話

◆こかん様に続く会

【日 時】 平成17年6月25日(土) 午前7時30分 出発
 26日(日) 午後5時 到着予定
 【内 容】 月次祭参拝、別席、基礎講座、参考館、支部長様お話、お楽しみ行事、他。
 【対 象】 17歳前後の女子青年
 【受講御供】 2,000円(基礎講座他は別に頂きます)。
 【携行品】 宿泊セット、別席を受ける人は席札を忘れないようにお願いします。

◆各行事に参加ご希望の方は、
 各ブロックの担当者にお申し込みください

第 7 7 0 期 修 養 科 募 集 要 項

*** 修養科期間**

立教168年6月1日～8月27日

*** 教 養 掛**

3ヶ月間	門 脇 元 教	(大教会役員・島根分教会長)
1ヶ月目	三 代 幸	(米府分教会長)
2ヶ月目	下 田 孝 徳	(行藤分教会長)
3ヶ月目	吉 岡 誠一郎	(興明分教会長)

*** 募集要項**

- ・ 志願者は、6月末日現在で満17歳以上で、下表の必要書類を携え、上級教会を經由して大教会に順序参拝すること。
- ・ 5月25日までに笠岡詰所に入所し、教養掛の面接を受けること。
- ・ 3ヶ月の修養期間を修了後は、大教会での修養科修了講習会を受講し、8月29日の昼食後に解散。

*** 教 科 書 (必須)**

『おふでさき』、『みかぐらうた』、『天理教教典』、『稿本天理教教祖伝』、『よふぼく手帳』。

*** 参 考 書 (出来れば持参)**

『おてふり概要』、『なりもの練習譜』(笛・打楽器または三曲)、『おやしき・史跡案内』。

*** 携 行 品**

おつとめの扇、筆記用具、認印、笛(男鳴物の講義で笛と小鼓の内、笛を選択する人のみ)。

*** 服 装**

ハッピ及び帯・バンド、長ズボン(又は、それに類するもの)、靴。

書 類	大教会	詰所	備 考
「順序参拝票」	○	○	
「別 席 願」	○	○	・「初席願」の順序参拝がまだの者で、修養科入学後に初席を運ぶ者のみ。
「席 札」		○	
「別席のしおり」	○	○	・願書に日付を入れない事。
大教会 御供	○		・おさづけの理拝戴願の順序参拝も合せて行なう。
本 部 御供		○	
「おさづけの理拝戴願」	○	○	・「おさづけの理拝戴願」の順序参拝がまだの者のみ。
「おはなし」	○		・願書に日付を入れない事。
大教会 御供	○		
本 部 御供		○	
「修養科入学願」		○	・御供は任意であるが、慣例により、200円以上。
「修養科入学事由書」		○	
修養科入学御供	○		
「住民票」または「戸籍抄本」		○	・「戸籍記載事項証明書」、「身分証明書」でもよい。

三月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に会長上原理一慎んで申し上げます

親神様には暖かく果てしない親心と御守護により日々は結構に恙なくお連れ通り頂き誠に有難うございます
特
に今は厳しかった寒さもようやく緩み日毎に春の暖かさを感じるようになり梅の花が咲き誇り鶯の声も聞かれる季節を迎えております
そんな中子供達は一つの学舎まなびやを卒おえ卒業証書を誇らしげに見せる姿を通してけなげにもたくましく育っている喜びも味わわせて頂ける事は誠に有難く勿体ない極みでございます
しかしながら一方で子供達を取り巻く大人達の環境はお金以外の信ずるものを失う等益々混沌の度合いを深めております事は誠に申し訳なくお道にお引き寄せ頂いた私共はご恩報じを念頭に後に続く子供達の時代が少しでも良くなる事を願って日々たすけ一条の御用の上に勤め励ませて頂いております

その中にも今日の吉日はたすけの元立てとお教え下されたおつとめをつとめる定めの日柄でございますので只今からおつとめ奉仕者一同喜び心も一入に明るく陽気に勇んで座りづとめ手をどりをつとめて三月の月次祭を執り行なわせて頂きます
御前には今日の日を楽しみに寄り集い相共に声高らかにお歌を唱和し日頃の御高恩に改めて御礼申し上げる皆の真実の状を御覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて教祖百二十年祭に向けて三年千日と仕切つての成人の歩みを仕上げの年に相応しいものとさせて頂くべく一月は直轄教会へ二月三月は部内教会へと巡教させて頂き「全教会一名以上の初席者を御守護頂こう」と改めて誓い合わせて頂きました
併せてその実現の為のみならず論達に込められた親の思いに応える為には全よふぼくが丸となつてたすけ一条の成人の歩みを進める事が大切とお互い励まし合い力を合わせて行く事も申し合わせて頂きました
又卒業進学就職等大きな節目を迎えている子供達に本部や大教会で開催される色々な行事の参加呼びかけ等を通してしっかりと声を掛け道の後継者育成を目指し丹精させて頂く所存でございます

何卒親神様には旬々にお掛け頂く親の声を頼りに力の限り成人の道を歩む皆の誠真実の心をお受取り下さいまして万たすけの上に尚も自由の御守護を賜わり親の思いに近づく人が弥増し互い立て合い助け合う陽気づくめの世の状に一日も早く立て替わりますようお願い申し上げます



実践項目集計 (2月)

百万軒にをいがけ	61,214軒
おさづけのお取次	4,078回
身上事情お願い	832件
提出教会	116ヶ所



人づくり集計 (3月末)

初席	40名
(教会散)	31ヶ所
おさづけの理拝戴	11名
修養科修了	3名
検定講習前期修了	1名
検定講習後期修了	なし

春季霊祭祭文

これの笠岡大教会の祖霊殿にお鎮まり下さいます本席様の御霊初代真柱様並びに奥様の御霊二代真柱様の御霊中山家御先祖の御霊大教会創設の祖上原佐吉大人八重刀自の御霊初代会長上原さと刀自の御霊二代會長上原伊助大人光刀自の御霊三代會長上原繁雄大人くに彘刀自の御霊四代会長上原郁雄大人の御霊大教会草創の頃より歴代会長と共にご苦労下さいました役員部内教会長教人よふぼく信者の御霊諸々の御霊の前に会長上原理一慎んで申し上げます

祖霊様方には親神様教祖のお見定めを頂かれ早くからお道に引き寄せられて真実の親を知るや私利私欲を忘れ御恩報じを願う上からたすけ一条の上に生きの限りに勤め切られました 今日お道の結構な姿をお見せ頂いておりますのもひとえに親神様教祖の御守護お導きの賜であります却又一つには御霊様方のそうした誠真実の伏せ込みのお陰と朝夕御礼申し上げると共にその意志を受け継ぎ親心にお応えすべく日々はたすけ一条の上に邁進させて頂いております

その中にも本日は春季霊祭を執り行う定めの日柄でございますので只今はおつとめ奉仕者一同親神様の御前にて手おどりをつとめさせて頂き引き続いて御霊様方の御前に参らせて頂きました 御前にはゆかりある人々が寄り集い海山川野の心づくしの物を供え奉り在りし日の面影を偲び御遺徳を称えて御生前の御苦勞に改めて御礼申し上げたいと存じます

何卒祖霊様方には皆の心を御心安らかにお受け取り下さいまして道の弥栄えは申すまでもなく教祖百二十年祭に向け仕上げの年にふさわしい成人を目指してたすけ一条に励む家人達の上にも御心放たずお見守りお力添えを下さり年祭のこの旬に親神様教祖にお喜び頂ける成人が果たせませすようお導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

・原・稿・募・集・

内 容

- ①小随筆、②教会・布教所の独自の活動の紹介、
③俳句・和歌・川柳、④教会行事開催後の報告記事 等々

字 数

1000字前後(800字~1200字)
題名・所属教会名・氏名を明記して下さい。
俳句等は1句からでも結構です。

寄 稿 先

下記、大教会内『かさおか』編集掛宛ドシドシご寄稿下さい。

郵便：〒714-0066 岡山県笠岡市用之江377

FAX：0865-66-1314

メール：tenkasa@kcv.ne.jp

尚、原稿はお返し致しませんので、予めご了承下さい。



大教会だより

II 教会指令 II

◎任命願

錦備 分教会

*前任 室

*新任 室

喜久子
悦子



☆奉告祭

立教168年4月3日

立教168年3月26日承認

坪生 分教会

*前任 掛谷 富子

*新任 掛谷 宣和



☆奉告祭

立教168年4月3日

立教168年3月26日承認

真金 分教会

*前任 猪原 縷理子

*新任 猪原 啓文



☆奉告祭

立教168年4月10日

立教168年3月26日承認

◎教会長資格検定講習会修了者

後期 立教168年3月19日終講

声常 原 啓道

前期 立教168年4月14日終講

海松ヶ岡 渡辺 和善



I 革命はコミュニケーション革命?

あるインターネット企業がテレビマスメディアに革新を起し、是からは低価格のブロードバンド(高速大容量)通信サービスでネット放送を実用化するようになり、テレビはIT(情報技術)型テレビになる。と言っている。一方的な現状メディアから双方向の対話や交流が主体となる通信と放送の融合である。テレビは居ながら世界の情報を見る事や、情緒的なドラマが、心を癒してくれるのに慣れ親しんだ団塊の世代の私。NHKの連ドラのファンも熟年層と言うのも理解できます。一方ITでは、自己指向情報を四六時中、幾通りも検索し、その必要な情報が探せるのである。特に隠密裏に出来るのが最大の魅力であり、逆に最も危険な事が隠されている場合も有るのです。

お道が起した革新! それは、時代背景が「土農工商」の頃に「世界

は一列みな兄弟姉妹や、他人と言うは更に無いぞや」である。「世界陸地(ろくち)に踏み均す」と説いた教えは、時の政府や高官には許し難き事であったから、「弾圧」を加えられた事は教祖伝にある。教祖は身近な所から始められたので五〇年掛けられた。その後からが実際の広まりで、人から人へと確実に伝わった。それも時間が掛かった。今、IT利用すれば瞬時に世界へ発信できて、質問回答などの「意思伝達」が誰とも無差別に交換できる利点があるという。反面、誹謗抽象や攻撃もあるのです。その為にIT犯罪の横行も事実です。本当に必要なことは、利用する側の心が誠実でないといけない、世界兄弟姉妹の意識があれば、人を騙す事は無いし、便利な物をより快活に利用する事こそ「陽気暮らし」に向かう事であり、それを伝え広める手段の、一つの方法であるべき物で無ければ成らないのです。「これからの教会はITつながりが道」なんて言う事に成るのでしょうか。

(ヒコ)